

私たちが母国語である日本語を理解するときのことを考えてみましょう。

「たろうくんはいたずらするのがだいすきでした」

この文を理解する際、私たちは「た」「ろ」「う」「く」「ん」「は」「い」「た」「ず」「ら」「す」「る」「の」「が」「だ」「い」「す」「き」「で」「し」「た」

のように、一文字ずつ解釈を積み重ねていくわけではありません。日本語を母国語とする人間なら、上の文を次のようなカタマリに分けています。

「たろうくんは / いたずらするのが / だいすきでした」

このように「カタマリ」に分けるという行為をネイティブスピーカーは「無意識に」行っています。

私たちは、歩行や呼吸、言語使用といった生存に必須の行為を、そのメカニズムを解明することなく行っています。こと母国語に関するかぎり、無意識のうちにその文法を習得し、その文法は普段は無意識の底に沈んでいるわけです。ところが、幼児期を過ぎてからの外国語学習はまったく違うプロセスを経ることになります。

習うより慣れよ

だけではうまく機能しません。もちろん、外国語も、母国語同様に、ゆくゆくは意識の底に定着させる必要があります。しかし、それまでにはネイティブが知らず知らずのうちにやっていること、言いかえればネイティブのアタマの働きを、**自覚的に、体系的に学習**しなければなりません。そして、「言葉のカタマリを認識する」というのは、外国語の学習にとって最重要事項と言えます。

こうした「言葉のカタマリ」は文法用語では「句」「節」と呼ばれます。私たちはこの「句」

と「節」を最終的にネイティブスピーカーと同じように無意識に認識できるよう、意識的に学ぶ必要があります。

英語において、カタマリは文中での働きによって

「名詞的なカタマリ」

「形容詞的なカタマリ」

「副詞的なカタマリ」

の3種類にわけることができます。また、その内部構造によって

「句」（内部にS+Vを含まない）

と

「節」（内部にS+Vを含む）

の2種類にわけることができます。したがって、英語のカタマリ全体は

「名詞的な句」 ⇒ 名詞句

「名詞的な節」 ⇒ 名詞節

「形容詞的な句」 ⇒ 形容詞句

「形容詞的な節」 ⇒ 形容詞節

「副詞的な句」 ⇒ 副詞句

「副詞的な節」 ⇒ 副詞節

の6種類に分類できる、ということになるわけです。

## 1. 名詞句と名詞節

まずは「名詞的なカタマリ」についてお話します。ところで、「名詞のカタマリ」って、どういうものを言うのでしょうか？

自由民主党都道府県支部連合会

とか、

国際連合安全保障理事会決議

などのことを言うのでしょうか？

答えは、NOです。英文法でいう「名詞のカタマリ（名詞句・名詞節）」とは

「やたらと長い名詞」

でも

「名詞がやたらたくさん集まったもの」

でもありません。

「名詞句」「名詞節」とは

「名詞と同じ働きをする、名詞ではないものを中心とするカタマリ」

のことになります。

それでは、「名詞の働き」とは一体何でしょう？

ここで、第1集の LESSON 1「文型」で学ぶことが生きてきます。英語において「名詞」というものを、実用的に定義するには「文型」のところで登場する「主語」「目的語」「補語」という概念を理解することが不可欠なのです。

英文法の枠組みにおいて、「名詞」の働きは次のように分類されます。

①主語	<b>Dick</b> smokes too much. (ディックはタバコを吸いすぎる)
②補語	The suspect was <b>Dick</b> . (容疑者はディックだった)
③目的語	They arrested <b>Dick</b> . (彼らはディックを逮捕した)
④前置詞の目的語	We are waiting for <b>Dick</b> . (我々はディックを待っている)

文中で、あるカタマリが上の①～④のいずれかの働きをしている場合、そのカタマリは名詞的な(中に名詞を含んでいなくても)カタマリと呼ばれ、

内部に S+V を含んでいなければ名詞句

内部に S+V を含んでいれば名詞節

と呼ばれるのです。

例をあげましょう。

His hobby is **collecting old coins**. (⇒ 第1集 LESSON 8)

(彼の趣味は古いコインの収集だ)

I don't know **how he got the ring**. (⇒ 第2集 LESSON 5)

(彼がどうやってその指輪を手に入れたのか、私は知らない)

では、それぞれ

**collecting old coins** が〈S+V+C〉の C として、

**how he got the ring** が〈S+V+O〉の O として、

働いています。したがってこの2つは名詞的なカタマリとされ、

内部に S+V を含まない **collecting old coins** は名詞句

内部に S+V を含む **how he got the ring** は名詞節

となります。

なお、現時点では〈S+V+C〉や〈S+V+O〉が何のことかさっぱりわからないという学生もいるでしょうが、気にせず読み進めて下さい。第1集の LESSON 1(文型)を受講した後で、あるいは第2集の LESSON 5(名詞節)を受講した後でもう一度この章を読み返してくれば OK です。

## 2. 形容詞句と形容詞節

英語における形容詞の働きは次の3つになります

①名詞を前から修飾	<b>a large</b> house (大きな家)
②名詞を後から修飾	a house <b>larger than mine</b> (私の家よりも大きな家)
③補語	His house is <b>large</b> . (彼の家は大きい)

このうち、句と節を考える場合に必要なのは②の「名詞を後から修飾する」です。

つまり、文中で

名詞←名詞を修飾するカタマリ

となっていれば、つまり、あるカタマリが直前にある名詞を修飾していれば、このカタマリはすべて形容詞的な(中に形容詞を含んでいなくても)カタマリと呼ばれ、

内部に S+V を含んでいなければ形容詞句

内部に S+V を含んでいれば形容詞節

と呼ばれるのです。

例をあげましょう。

Who is the man **speaking over there**? (⇒ 第1集 LESSON 6)

(向こうで話している人は誰ですか)

Read the textbook **on the desk**. (⇒ 第1集 LESSON 12)

(机の上の教科書を読みなさい)

This is the house **which he bought**. (⇒ 第2集 LESSON 6)

(これが彼が買った家だ)

では、それぞれ

**speaking over there** が the man を、

**on the desk** が the textbook を、

**which he bought** が the house を、

修飾しています。

したがってこの3つは形容詞的なカタマリとされ、

内部に S+V を含んでいない **speaking over there** と **on the desk** は形容詞句

内部に S+V を含んでいる **which he bought** は形容詞節

となります。

### 3. 副詞句と副詞節

名詞や形容詞と比べると、副詞の働きはバラエティに富んでいます。

①動詞を修飾	He did not see the accident <b>clearly</b> . (彼はその事故をはっきりと見たわけではない)
②形容詞を修飾	She is a <b>very</b> good student. (彼女は非常に優秀な生徒だ)
③副詞を修飾	He'll be leaving <b>very</b> soon. (彼は今すぐにも出発します)
④文全体を修飾	<b>Clearly</b> , he did not see the accident. (明らかに、彼はその事故を見ていない)

やたらと複雑そうですが、次のように考えれば話は簡単になります。

#### 副詞は名詞以外を修飾する

すべての修飾語は形容詞（的なもの）と副詞（的なもの）に分けることができます。その修飾する相手が

名詞なら	→	形容詞
名詞以外なら	→	副詞

と考えればいいのです。さらに、句と節という観点から見れば、話はずっと簡単になります。ひとことで言えば、

あるカタマリが名詞句（節）でなく、形容詞句（節）でもなければ副詞句（節）となる

という消去法的な考え方でいいのです。例をあげましょう。

**To earn his living**, he worked hard. (⇒ 第1集 LESSON 4)

(生計を立てるために、彼は必死に働いた)

he が S, worked が V となる〈S+V〉型（第一文型）で **hard** は動詞の worked を修飾す

る副詞です。文頭の **To earn his living** というカタマリは、文頭にあるものの、後に **he** という主語がすでに存在しているため、主語にはなれません。したがって名詞として働くことができません。さらに、文頭にあるわけですから形容詞として働く（＝前にある名詞を修飾する）こともできません。したがって、この **To earn his living** は副詞的なカタマリとなります。また、内部に **S+V** の構造を含んでいないので節ではなく句となります。よって **To earn his living** はこの文では副詞句として働いていることとなります。もうひとつ、例を見てみましょう。

**He was absent because he was ill.**                   (⇒ 第2集 LESSON 8)

(病気だったので、彼は欠席した)

**He** が **S**、**was** が **V**、**absent** が **C** となる〈**S+V+C**〉型（第2文型）です。**S** も **C** も揃っているわけですから **because he was ill** が **S** や **C** になることはありません。したがってこのカタマリは名詞的なものではありません。また **because he was ill** の前には名詞がないので、「名詞を後から修飾する」という形容詞の働きもできません。以上から、この **because he was ill** は副詞的なカタマリとなります。また、内部に **S+V** の構造を含んでいるので、副詞節となります。

このように、文のカタマリを見抜くには、基本となる構造（文型）とそれ以外の要素（修飾語句）を識別することが要求されます。本テキストでは

第1集の LESSON 1/2 で「文型」を、

LESSON 4~9 で「句」を構成する準動詞を、

第2集の LESSON 5~8 で「節」を、

学習します。この章はあくまでも序章にすぎず、英語を形から考える際の骨格を示しただけです。上記の章をしっかりと学習してこの骨組みに肉付けしてってください。